バイオプラ、卵殻60%配合

サムライトレーディング開発

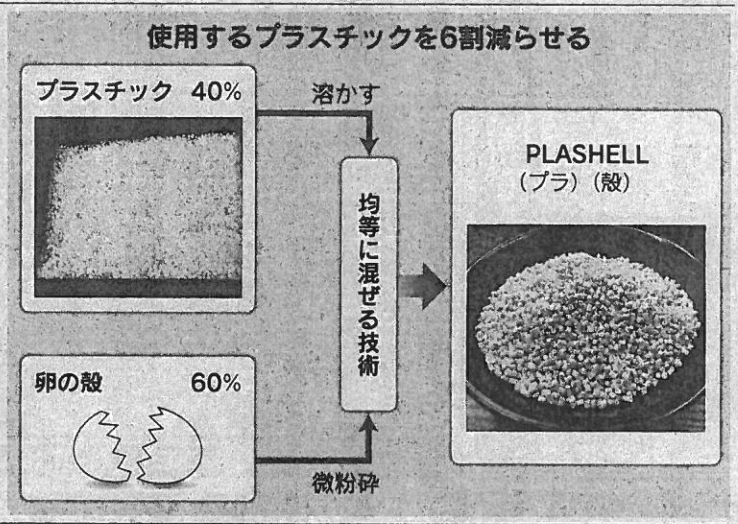
既存ライン・金型で加工可

食品製造販売・輸出を手がけるサムライトレーディング（埼玉県桶川市）は、卵の殻を60%以上配合したバイオプラスチックを開発した。プラスチック成型加工メーカーの既存設備で加工できる。石油由来のプラスチック製品による環境汚染が問題となるなか、産業廃棄物となる殻を有効活用する。環境対策に積極的な企業などに広く普及させることを目指す。

強度も高く、食器や箸、ゴルフのティーなど様々な製品に利用できる

バイオプラ「PLASHELL」（プラシェル）は、液卵工場などで出る卵の殻を粉砕して細かい粉状にし、溶かしたプラスチックと混ぜて小粒のペレットを製造する。

マヨネーズやアイスクリームなど原料を均等に混ぜる食品加工の技術を生かし、殻を60%、プラスチックを40%で配合する。ホタテ貝殻パウダーなどを製造販売するWM（栃木県那須塩原市）との共同研究で実用化した。サムライトレーディングが殻を買い取って洗浄、乾燥して微粉砕。ペレットの製造はWMに委託する。



ペレットは通常のプラスチックと同様に、射出成型機で食器や箸、箱など様々な形に加工できる。メーカーは既存のラインや金型を使え、新たな設備投資が必要ない。微生物などが分解する生分解性プラスチックよりも安価に生産でき、ペレットは通常のプラスチックと同程度の価格で販売する。

食品工場では大量の殻が発生し、産廃のため廃棄のコストもかさむ。サムライトレーディングの桜井裕也社長は「食品業界のためにも何とかできないかと考えていた。天然資源を活用してゴミの減量につなげる方法で、社会に貢献したいと思った」と話す。

2月には埼玉県の渋沢栄一ビジネス大賞ベンチャースピリット部門で奨励賞を受賞。すでにカルソニックカンセイがプラシェルを使った部品箱や工具入れを導入している。サムライトレーディングはメーカーへの販売のほか、飲食チェーンなどにもPRし、年内には月300トンの販売ペースとするのが目標だ。

埼玉県発のフラ削減の取り組みとして「エコ玉プロジェクト」と題したキャンペーンも進める。「SAVE THE EARTH 金の卵に変わるかも」のキャッチフレーズでポスターを製作。備品の買い替えの際にプラシェルを導入する意思を表明した協賛企業のロゴマークを入れて、利用を呼びかける。県内外から協賛が集まっているという。

通常のプラスチックではなく、生分解性プラを40%使うこともできるが、価格が高くなるため同社は現状では普及が難しいとみている。桜井社長は「まずは通常の価格でプラスチックを6割削減できる製品として広く使ってもらえるようにしたい」と話している。

地銀広域連携に参加

武蔵野銀 フィンテック強化

武蔵野銀行は13日、千葉銀行や第四銀行など地方銀行7行でつくる「TSUBASAアライアンス」に参加すると発表した。IT（情報技術）と金融が融合したフィンテック分野で広域連携する枠組みに加わり、システム開発コストの軽減やITを生かした金融サービスを強化する。

武蔵野銀は2018年3月、同アライアンス加盟行や、日本IBMが出資するT&Iイノベーションセンター（東京・中央）とシステム関連の提携を結んでいる。この枠組みで銀行システムへの接続仕様を外部事業者に公開する「オープンAPI」の共通基盤作りで協力してきたことから、TSUBASAアライアンスへの合流を決めた。

武蔵野銀と千葉銀などは、勘定系などの基幹システムは異なるものを採用している。武蔵野銀は「必ずしも基幹システム統合を前提とした提携ではない」と説明している。

相続、年1200件支援目標

武蔵野銀が中期計画 営業力底上げ

武蔵野銀行は13日、2019年4月から23年3月までの中期経営計画を正式発表した。行員の営業力を底上げし、法人・個人ともに長期にわたって取引を継続できる関係を構築する。今月取得した信託免許などを活用し、需要増が見込める相続関連で最終年に1200件の支援を目指す。

新たな中期計画は14年3月期から10年間の長期ビジョンに向けた集大成と位置付ける。埼玉県が地盤の地方銀行として顧客や地域の課題解決を通じて安定的な収益につなげる姿勢を打ち出した。

営業力強化に向けては法人・個人の営業担当を明確に分け、専門的なノウハウを持つ行員の育成制度を創設。住宅購入や教育、介護、相続など顧客の人生設計に沿った満足度の高いサービスを提供できる体制を整える。

千葉銀行との業務提携も深化させる。埼玉、千葉両県境や都内など成長性のある地域を中心に共同での営業を強化するほか、2018年に設置したシンガポール事務所を核に東南アジアでの取引先支援も拡充する。

23年3月期の数値目標は当期純利益（単体）が100億円で、自己資本利益率（ROE）は4%以上とした。